

図11 時刻別攪拌刺激と運動型細胞出現時刻との関係 (I)

(6) 運動型細胞観察試験 6 (攪拌時刻による出現時刻と出現推移)

時刻別攪拌刺激と運動型細胞出現時刻との関係 (II) を図12に示した。光条件において運動型が出現しやすい時間帯である11:30に攪拌刺激を与えたA区の運動型出現率は刺激後60分経過した12:30に試験区中最大の3.0%を示し、刺激後400分経過した18:10まで運動型は観察された。A区の刺激3時間後の14:30に刺激を与えたB区の運動型出現率は刺激後120分経過した16:30に最大の2.2%を示し、刺激後420分経過した21:10まで運動型は観察された。B区の刺激3時間後の17:30に刺激を与えたC区の運動型出現率は刺激後40分経過した18:10に最大の0.7%を示し、刺激後320分経過した22:50まで運動型は観察された。C区の刺激2時間後の照明停止直前19:30に刺激を与えたD区の運動型出現率は刺激後80~120分経過した20:50~21:30に最大の0.2%を示し、刺激後180分経過した22:30まで運動型は観察された。

(7) 細胞形態の違いによる共生試験 (運動型細胞の有利性の検討)

細胞形態の違いによる共生試験結果を表17に示した。試験中の飼育容器の観察では、運動型細胞区で運動型細胞は仔貝1個体当たり5細胞、毎日観察された。試験に供した仔貝36個体中、共生成立した個体は両区共に4個体で、共生率は11.1%で等しかったが、共生成立した日令は静止型細胞区は運動型細胞区よりも遅かった。

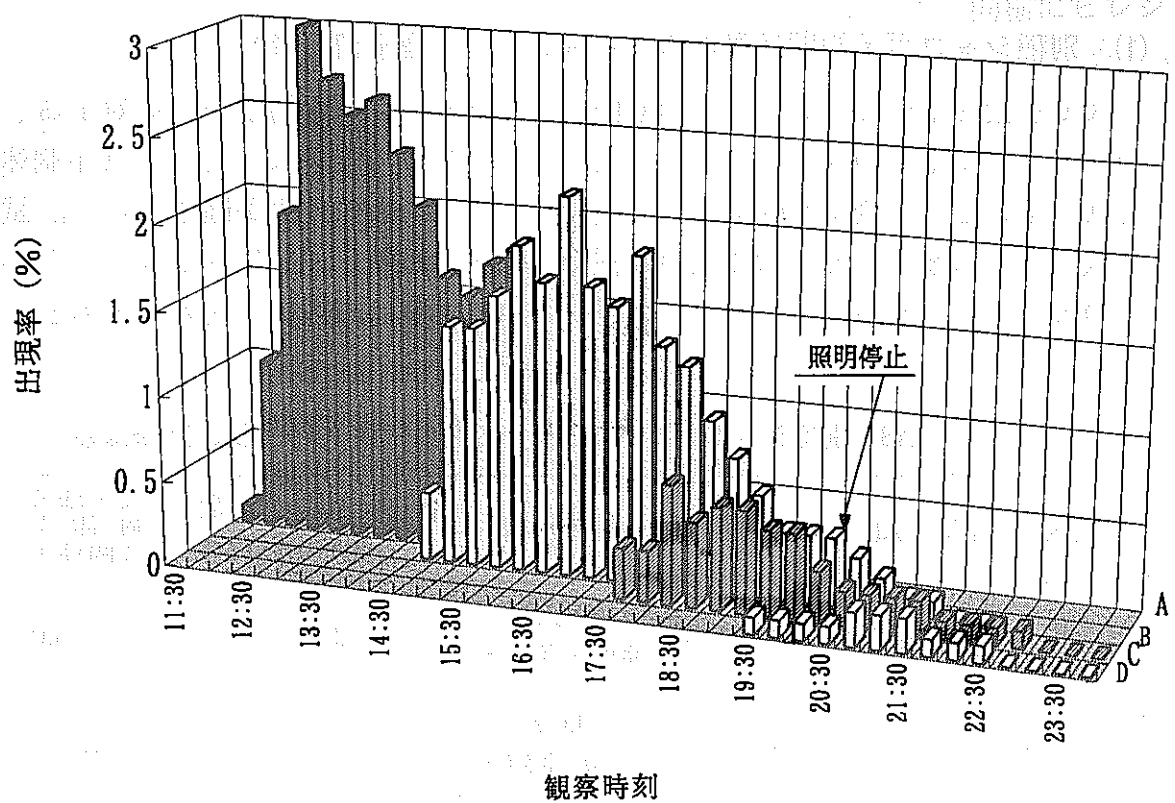


図12 時刻別攪拌刺激と運動型細胞出現時刻との関係 (II)

表17 細胞形態の違いによる共生試験結果

試験区	飼育水温 (°C)	孵化幼生 個体数	共生成立 個体数	共生率 (%)	共生成立 日 令	試験終了 日 令
運動型 細胞区	27.5 ~ 30.0	36	4	11.1	11~16	20
静止型 細胞区		36	4	11.1	17~20	20